



**サステナビリティ Navi**  
YACHIYO Engineering

# 生物多様性が導く、 企業の新たな価値創造

先進的な5社の取り組みから探る、持続可能な経営の在り方

# 目次

1. 生物多様性とは
2. なぜ生物多様性が必要なのか
3. 企業が生物多様性の保全に取り組む意義
4. サステナビリティNaviの生物多様性サービス
5. 生物多様性経営の先進事例



## はじめに

地球上の生物多様性は人類の生存基盤であり、私たちの暮らしを支える多様な恵みをもたらしてくれます。しかし近年、その生物多様性が急速に失われつつあります。**多くの生物種が絶滅の危機に瀕しているのです。**

この危機的な状況を食い止め、生物多様性を未来に引き継ぐためには、**社会全体での取り組みが不可欠**です。本ホワイトペーパーでは、生物多様性を守るために先進的な取り組みをしている企業の事例を紹介しながら、その意義や取り組み方のヒントを解説します。

生物多様性とは、**生きものたちの豊かな個性とつながり**のことです。

### 生態系の多様性



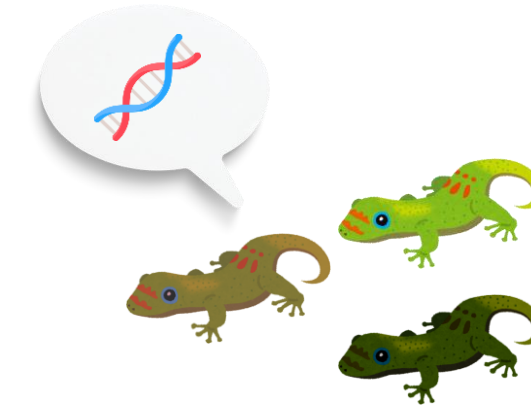
森林、サンゴ礁、  
湿地など、さまざまなタイプの  
自然環境が存在します。

### 種の多様性



植物、動物、微生物など、  
さまざまな生物種が存在します。

### 遺伝子の多様性



同じ種の中にも、個体によって  
遺伝的な違いが存在します。

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応しながら進化し、

**3,000万種ともいわれる多様な生きもの**が生まれました。

私たち人間の暮らしは、**生物多様性が織りなす自然の恵み**に支えられています。

生物多様性は以下のような形で、私たちの暮らしを支えています。

### 食料の供給



農作物や水産資源など、私たちの食料の多くは、生物多様性に依存しています。

### 医薬品の開発



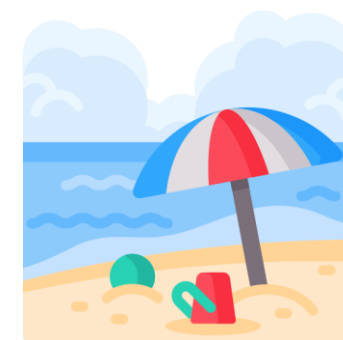
新薬の開発に用いられる遺伝資源の多くは、生物多様性から得られます。

### 水の浄化



多様な生物が生息する湿地や森林は、水質浄化の機能を担います。

### レクリエーション



豊かな自然は、私たちレクリエーションの機会を提供してくれます。



現在、開発による生息地の減少、外来種の侵入、気候変動などにより、生物多様性は急速に失われつつあります。**種の絶滅スピードは自然状態の1,000倍**にも達し、私たちの暮らしを支える生態系サービスの多くが劣化の一途をたどっています。

このまま生物多様性の喪失が続けば、私たちの生存基盤そのものが失われかねません。**食料危機や水不足、自然災害の激甚化など、私たちの暮らしへの脅威は増大**する一方です。経済活動も大きな打撃を受けるでしょう。

出典：環境省みんなで学ぶ、みんなで守る生物多様性-Biodiversity-

企業が生物多様性の保全に取り組む意義やメリットは、主に以下の3つです。

1

### 事業リスクの回避



原材料調達や操業の場の確保など、企業活動は生物多様性に大きく依存しています。生物多様性の損失は、資源の枯渇や自然災害の増加など、事業継続を脅かすリスクとなり得ます。

2

### ビジネス機会の獲得



生物多様性に配慮した製品・サービスへの需要は高まっています。生物多様性の保全に貢献する企業は、投資家や消費者から高く評価される傾向があります。

3

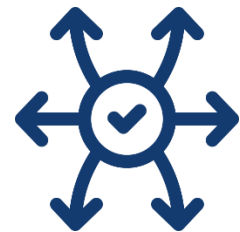
### ステークホルダーとの関係強化



地域社会やNGOなどステークホルダーとの対話と協働を通じて、企業の社会的評価の向上や、事業の安定的な運営につなげることができます。

サステナビリティNaviは、**多分野の専門家が集結し**  
**生物多様性へのあらゆるニーズに対応**します

### サービスの特徴



専門家による詳細評価  
から簡易評価まで、お  
客さまのニーズに合わ  
せて柔軟に対応



森林、里山、河川、湿  
地、海洋などあらゆる  
フィールドに対応



ビジョン・戦略の策  
定から実地での活動  
支援まで、あらゆる  
フェーズに対応



気候変動対策（カーボン  
ニュートラル）と生物多  
様性保全の複合領域に  
も対応

## サービス①

生物多様性の現状把握

保全・創出方策の立案



- 事業拠点および周辺の生物多様性調査
- 生物多様性と自社事業の関連性分析
- 生物多様性へのビジョン・戦略策定支援
- 森林・里地・藻場・干潟などの保全・再生計画策定や効果検証
- 事業地内ビオトープの計画・設計
- 工場などのインフラ整備の環境アセスメント

## サービス②

CO<sub>2</sub>吸収・固定量の把握

クレジット申請支援



- 森林や藻場・干潟の現況調査  
(ドローン、潜水、衛星画像解析 など)
- CO<sub>2</sub>吸収・固定量の算定  
(グリーンカーボン・ブルーカーボン)
- カーボンクレジット申請・活用支援
- 森林資源・海洋資源を活用した地域活性化

## サービス③

環境教育・研修支援

情報発信支援



- 従業員や地域向けの環境教育・研修プログラム  
の計画・実行・効果検証
- ブランディング、メディア広報支援  
(動画・パンフレット・ウェブページ  
など)
- NPOや専門家、自治体、漁業関係者な  
どの外部関係者とのマッチング・渉外

## サステナビリティNaviの事例

**「明治グループ自然保全区 くまもと こもれびの森®」  
における生物多様性保全と環境学習支援**

当社は、KMバイオロジクス社の工場敷地内にある「明治グループ自然保全区 くまもと こもれびの森®」での生物多様性保全活動を支援しています。

専門家による生物多様性調査、希少種保全、環境学習プログラムの開発・実施を通じて、企業の事業活動と生物多様性保全の両立を実現しています。

**取り組みの概要**

- 生物多様性に富んだ緑地の保全管理に取り組む
- 「明治グループ自然保全区 くまもと こもれびの森®」を活用した環境学習プログラムを実施し、従業員や地域住民の環境保全の意識を向上
- 八千代エンジニアリングが生物多様性調査、緑地保全管理計画策定、環境学習プログラム運営を支援

**取り組みのポイント**

- 自然を育む生物多様性を保全することが、企業の存続に直結するという考えのもと、環境保全に注力
- 科学的根拠に基づいた保全管理計画の策定と実行により、生物多様性の損失防止に貢献
- 生物多様性保全の輪を広げ、自然との共生について理解を深める機会を創出

出典：[食品や医療を支える豊かな自然を共に守る、大切な環境保全パートナー（八千代エンジニアリング）](#)

地域在来種の植栽で生物多  
様性を守る  
「5本の樹」計画



取り組みの概要

- 2001年から「5本の樹」計画を開始し、地域の在来樹種を中心とした植栽を推進
- 20年間で累計1,709万本を植栽し、生物多様性に配慮した住宅地づくりを実践
- 琉球大学との共同研究で、「5本の樹」計画による生物多様性の保全効果を定量的に評価

取り組みのポイント

- 「5本の樹」計画では、環境NPOや造園業者と連携し、生態系調査や教育プログラムなどを展開
- 一般的な造園で用いられる園芸品種や外来種ではなく、地域の在来樹種を積極的に植栽している
- 植栽した樹木のデータと生物多様性に関するビッグデータを用いて、科学的に保全効果の検証を行う

出典：積水ハウスの「5本の樹」計画とは？「5本の樹」計画20年間の歩み（積水ハウス）より作成

## 薬用植物などの保全活動と 「わくわく自然ふれあい隊」



### 取り組みの概要

- 1933年に「京都武田薬草園」を創設し、世界各地から薬用植物を収集・保存・栽培
- 収集した薬用植物を薬学・環境教育支援活動に活用
- 2011年から、小学生を対象とした環境教育支援活動「わくわく自然ふれあい隊」を実施

### 取り組みのポイント

- 本業に直結する薬用植物を収集・保存し、貴重な遺伝資源として次世代に引き継いでいる
- 収集した薬用植物を、医療関係者の薬学教育支援活動に活用し、専門人材の育成に貢献している
- 小学生に植物の栽培・収穫・加工体験を提供し、自然環境の理解と関心を育む環境教育を実践している

出典：[京都薬用植物園と京都市の「生物多様性保全に関する協定」の締結について（武田薬品）](#)より作成

## 「天然水の森」での 水源涵養と 生物多様性の保全



### 取り組みの概要

- 2003年から工場の水源涵養エリアの森林を「天然水の森」に設定し、長期的な整備を実施
- 科学的な調査・研究をベースに、R-PDCAサイクルで長期的な森づくりを実践
- 流域全体での生態系保全に取り組み、知見を公開し全国の森づくりに貢献

### 取り組みのポイント

- 多岐にわたる分野の研究者と共同で調査・研究を行い、科学的根拠に基づいた森林管理を実践
- 「水育」をはじめとする環境教育活動や大学への寄付講座の設置など、水を育む森の大切さを伝える活動を通して、企業のブランド価値向上につなげている

出典：「サントリー天然水の森」（水源涵養/生物多様性の再生）（サントリーホールディングス）より作成

## 水田を利用した 地下水の涵養と 生物多様性プロジェクト



### 取り組みの概要

- 熊本テクノロジーセンターで、地元NPOなどと協力し、水田を利用した地下水涵養を継続的に実施
- 地下水涵養量を定量化し、生態系サービスへの支払い（PES）を17年間継続

### 取り組みのポイント

- 半導体製造で大量の地下水を使用するため、地下水を重要な自然資本と認識し、持続可能性を追求
- 地下水涵養量を定量化することで、取り組みの効果を可視化する。先進的な取り組みを実施中
- 水田を利用した地下水涵養を継続することで、地域の水循環の維持に貢献

# 生物多様性経営の支援は サステナビリティNaviにお任せください。

生物多様性への配慮は、**企業の競争力**を左右します。  
カーボンニュートラルや地域活性化を目指す企業さまを、  
**戦略の立案から実行まで一気通貫でサポート**いたします。

無料相談を実施中！

[お問い合わせ](#)

CLICK



**サステナビリティ Navi**  
YACHIYO Engineering

**yec** 八千代エンジニアリング株式会社

〒111-8648 東京都台東区浅草橋5-20-8 CSタワー  
電話：03-5822-6800 受付時間 10:00~15:00(月~金) Mail：sustainability-navi@yachiyo-eng.co.jp  
ウェブサイト：<https://sustainability-navi.com/>